

# 医師不足地域を支える医師



伊豆赤十字病院

院長

吉田 剛 医師

## 医師をこころざしたきっかけを教えてください。

吉田医師

小学2年生の作文で“医師になりたい”と書いていました。私自身は覚えていないのですが、小学1年の冬に、妹がオートバイに目の前で接触し、顔面にひどい擦過傷を負いました。それを目撃していた私が、きれいに治り退院してきた妹の顔を見て、“お医者さんすごい”を連発していたそうです。その後、将来は医師になるのだと言うようになったと聞いています。もちろん、その後パイロットや建築家などにも憧れましたが、なぜか医師はいつも目指す職業の選択肢に入っていました。

## 医師として働いてきた中で印象に残っていることを教えてください。

吉田医師

一番印象に残っているのは、最初に処方したときのことです。医師になった初日に、ある患者さんの主治医になり、“便秘の薬が欲しい”と言われました。いざ処方箋を手にした時、自分の指示を信じて内服する患者さんのことを考え、責任の重大さに何もできませんでした。その時の背筋が寒くなるような感覚は、今でも覚えていますし、忘れないようにしています。

## 地域の病院として果たす役割について教えてください。

吉田医師

一言でいえば、医療における総合商社のようなものではないかと思います。地域によって病院の様々な役割の比重が変わってきますが、基本的には、かかりつけ医としての一次医療、二次医療としての救急・一般医療、必要性を見極めた高度専門医療との連携。そして回復期の医療、福祉・在宅医療との調整まで、診断・治療におけるすべての局面にかかわります。さらに、予防医学の面でも、検診業務、予防接種なども担っています。

行政・福祉なども含めたその地域の他の医療機関との連携を密にしていくこと。限られた医療資源を十分活用して住民が安心して暮らせる地域をつくること。それらを中心となってコーディネートしていくのが、理想的な地域の病院のあり方ではないかと考えています。



## —— 医師不足地域での勤務について(地域医療に対するお考え、やりがい等)教えてください。

**吉田医師** 静岡県は生活圏と医療圏が比較的一致する地域が多いのが特徴で、多くの医療圏は中核病院を頂点に医療のピラミッドが程よく構築されており、医療の面でも住みやすい県ではないかと思っています。しかし、そんな静岡県でも医師不足の地域はこのピラミッドが構築しにくく、人口の少ない地域と一致することもあり、医師以外の医療資源も少なく苦労するのが現状です。そんな地域では病院が多岐にわたる役割を担わなくてはいけなくなり、医師の数も少ないため一人にかかる役割や責任も大きくなっています。こう言うとかなり大変なようですが、私が20年以上このような地域の病院で仕事をしているのは決して義務感や正義感などではなく、面白くて楽しかったからです。地域としての諸問題や、住民一人一人の健康問題に対処し、何らかの結果を得たときの充実感や達成感は大病院では味わえないことでした。また住民が少ないため、患者さんと様々な場所で触れ合う機会があり、それぞれの生活環境などの情報が把握しやすく診療に活かせることが楽しく感じられることも、魅力であったかもしれません。私の性格も、一つのことを深く探求するよりも広く浅く色々な分野の知識を得ることが好きなタイプですので、そんなところも今の病院が向いていた要因かもしれません。

## —— 貴院で勤務する若手医師の活躍について教えてください。

**吉田医師** 現在、数名の若手医師が、当院と一緒に地域医療の一端を担ってくれています。若手医師にあって自分にない体力と最新の知識を最大限使って、この地域の実情に合った医療を供給してくれています。ここに来るまでは経験しなかったであろう保健活動や福祉との連携にも積極的に楽しく!?かかわってくれています。一方、自分で判断して決断しなくてはいけない責任の大きさにプレッシャーは少なからず感じているようですが、そんなプレッシャーにも真正面から挑戦してくれています。

## —— 医師を目指す学生へメッセージをお願いします。

**吉田医師** 優秀な皆さんが医学部に進学して最新の医学を勉強されていることと思います。そして卒業するころにはかなりの医学の知識を得ていることと思います。でも、私が願うのは医学において常に謙虚さを忘れないでほしいということです。もう少し大きな視点で言えば、自然に対して常に畏敬と謙虚さを持ってほしいと希望します。

我々医師は国家試験に受かった段階で、好き嫌い関係なく医療における指揮官となります。自分の指示で様々な医療行為が行われ、結果に対しての責任が発生します。また、様々な人生経験を積んだ、様々な家庭環境の患者さんと向き合うこととなります。医師としてそれに対処するために、時間があり責任がない学生である今、医学以外の様々な経験をしてほしいと思います。バイト・旅行・クラブ・趣味など、なんでもいいので楽しく、時につらいことに熱中してみてください。そして、社会とつながりを持って様々な経験をしてほしいと思います。医師として働くとき、忘れたころにそれが生きてくるものです。

最後に私の好きな一節を2つ紹介します。

『我は処置す、神が癒し給う』、

『治すこと 時々、和らげること しばしば、慰めること いつも』

皆さんが医師になって様々な経験を積んだときに思い出してくれたら幸いです。地域での医療に興味がある人が一人でも増え、そんな若い医師と伊豆と一緒に仕事できる日が来ることを祈っています。



### プロフィール

## 吉田 剛 医師

趣味  
スポーツ観賞  
ゴルフ  
歴史に興味がある

1985年～1987年  
1987年～1989年  
1989年～1992年  
1992年～1994年  
1994年～1996年  
1996年～1997年  
1997年～2010年  
2010年～2012年  
2012年～2019年  
2019年～現在

静岡県立総合病院 初期研修  
伊豆赤十字病院  
藤枝市立志太病院(現 藤枝市立総合病院)  
浜松市国民健康保険佐久間病院  
自治医大大宮医療センター 総合Ⅱ 助手  
イエテボリ大学病院(スウェーデン)  
地域医療振興協会 共立湊病院  
地域医療振興協会 伊豆下田病院  
地域医療振興協会 伊豆今井病院  
伊豆赤十字病院 現職